

カルメル 霊性センターニュース



2025年2月 416号

目次

目次	1
心の泉	2
カルメル会の企画案内	2 2
東京	2 3
京都	2 5
名古屋	2 9
諸所の企画案内	3 0
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	3 4

心の泉



宇治カルメル会修道院



第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

第五章 秘跡の尊さと司祭職

1 主

《もしあなたが天使のように清く、洗礼者ヨハネのように聖徳をもっている、この秘跡を受け、あるいは扱うに足りる者ではない。救い主である私の秘跡を扱い、天使のパンを食べること、これは人の功德によるものではない。

秘跡の偉大さよ、天使にもゆるされない任務を与えられた司祭の威厳の偉大さよ、教会において、正当に叙階された司祭だけにミサを捧げ、キリストのからだを聖別する権利が与えられた。司祭は、神の代理者、神の命令と制定とによって、神のみことばを用いるのである。つまり、神は第一の作者であり、目に見えない行為者である。神が望むものはすべて神に従い、命令されたものは、すべて神に奉仕するのである。

2 すべての徳に飾られて

このもっとも聖なる秘跡においては、あなたの五官とそのほかの見えるどのしるしよりも、全能の神を信じるべきである。おそれと尊敬とをもって、この秘跡に近づかなければならない。

司教の^{あんしゆ}按手によって、「あなたにどれほどの責任がゆだねられたかをよく反省し」（一テモテ 4・16、14 参照）、理解するようにしなさい。あなたは司祭に叙階され、ミサを捧げるために聖別された者である。それならば、聖なるいけにえを、忠実と敬虔とをもって神に捧げ、すべてにおいて非難されるところのない者となるように心がけなさい。あなたは司祭職を受けることによって、荷が軽くなったのではなく、いっそう厳しい規律の絆で結ばれ、聖性をさらに完全にする義務を担ったのである。司祭は、すべての徳で飾られ、他人によい生活の模範を示さなければならぬ。司祭は世間の人々が歩む道に従うべきではなく、天にいる天使か、あるいはこの地上の徳の高い人々と対話をするようにしななければならぬ。

3 キリストを受け継ぐ

祭服をつける時、司祭はキリストの代理者であるから、自分自身とすべての人々のために、つつしんで心から神に祈らなければならない。また、絶えずキリストの受難を思い出すために、祭服の前と後ろに、主の十字架をつけている。祭服の前にある十字架は、忠実にキリストの跡をたどり、熱心に従っていくためである。後ろに十字架をつけているのは、他人からの迫害を神のために忍耐することを学ぶためである。前に十字架をつけているのは自分の罪を泣くためであり、後ろに十字架をつけているのは他人の罪をあわれんで泣き、自分が神と罪人との仲介者として立っていることを忘れないためである。そして神の恵みとあわれみを乞い求めて祈り続け、聖なるいけにえを捧げることを知るためである。司祭がミサを捧げる時には、神に光栄を帰し、天使を喜ばせ、信徒の模範となり、人々を助け、死者に憩いを与え、自分自身をも天の喜びにあずからせるのである。》

希望の巡礼者



「キリスト者にとっての希望とは、人生をキリストとともに歩むことで、神のあたたかな照らしを絶えず受け、滅びることのない命の安らぎを少しずつ実感しながら、心の奥底から湧き上がる聖霊の息吹の後押しに励まされて、積極的に前進していくことです。」 希望の巡礼者より

わたしたちは神へと戻っていきます。
このことこそわたしたちにとって基本的な、本質的なことです。
それにもかかわらず、最も忘れられているのです。

福者幼きイエスのマリー=ユウジェーヌ神父 ocd



主の奉献(2月2日)

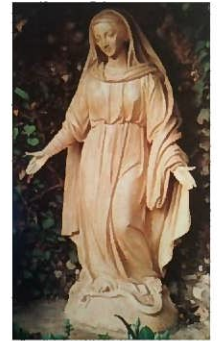
テレーズ列聖百周年



人生を、真の光のもとに眺めましょう。
それは、永遠の線上にある一刹那(せつな)にすぎません。

手紙 87

苦しんでいるとき、
わたしたちの苦しみに
こだまして響く心の友をもっているのは、
何と幸せなことでしょう！ テレーズ 手紙 88



ルルドの聖母(ヌヴェール)
世界病者の日(2月11日)

主のみ心にかなうものは、自分の小ささ、貧しさを愛し、
主のあわれみにひたすら信頼しきっているものです。 手紙197

日々の至らなさ、失敗にも落胆することなく、希望の巡礼者は、ともに歩んでく
ださるキリストへの信頼のうちに・・・とにかく歩き続けることができますように。

伊従 信子(いよりのぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

フランシスコ教皇の言葉⑩

希望は愛から生まれるもので、十字架上で刺し貫かれた
イエスのみ心から湧き出す愛を土台としています。

十字架上にはりつけになったキリストは、日本人にとっては目をそむけなくなる無惨な哀れな姿です。それは表面的に見れば、ガリラヤで始まった福音宣教の挫折であり、宗教的・政治的敗北以外の何物でもないと思われるからです。弟子からも同胞からも異邦人からも見捨てられ、さらには神からも見捨てられたかのようなその姿は、希望どころか絶望をもたらすものではないかと。

ところが、教皇さまは「十字架上で刺し貫かれたイエスのみ心から湧き出す愛」を問題にされます。なぜなら、私たちへの愛ゆえに、イエスは死を覚悟し、わざわざエルサレムに向かい、十字架につかれたと考えられるからです。使徒ヨハネはこう言っています。

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛して、私たちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。(1ヨハ4・10)

十字架の姿の中に輝き出る神の愛に気づくならば、どんな絶望的な状況に陥ろうと、立ち上がる希望が、私たちの内に生まれてくるのです。(P. 九里)

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (198)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

まったくきヒューマニズム (3)

倫理的あるいは道徳的な表現に立ち入らなくても、すべて非人間的なことは、的からはずれることです。それは、ギリシア人がすでに罪を指し示した、*amartano* (動詞), *amartía* (名詞) (的をはずす、失敗) というすばらしい言葉で意味したことです。

真に人間的なものがすべて拒否されるのではなく、すでに述べたように、すべて受け入れられるよう望むのであれば、十字架のヨハネが人間的な諸価値——理性や情熱や人間の宝と呼ぶべきものすべて——を熱心に守ろうとしたことは、驚くべきことではないでしょう。

この問題に深入りせずに、彼の教えに従って、次のことを私たちは思い出すべきでしょう。「人間が理性をより頻繁に、またより良く使えば使うほど、人間はより理性的になるでしょう。よりわずかに、またより悪く使えば使うほど、人間はより理性的でも、より人間的でもなくなるでしょう。時には、自分の人間的で理性的な尊厳をおとしめることでしょう。自分の理性的で人間的な尊厳を放棄する時、常に、そして実際に、このことが起こるのです。奴隷となっている者は自由になるように呼ばれ、また奴隷となっている者は、雇用者、主人とならなければならないのです。」

わずかな人しか、十字架のヨハネの法廷から解放されないであろうと、私は思います。彼は、人々が、何らかのために私たちに与えられた理性や知性の自然的な能力を使うことができなかったことに従って、法廷に呼び出すのです。

(続く)

P. 九里訳

主の奉献の祝日 (C)

(ルカ 2 : 22 - 40)

この祭日は重要です。クリスマスのサイクルと関連があるからです。イエスは福音書の中で異邦人への光、ユダヤ人の栄光として表わされています。主の奉献の祭日は、教会歴のうちで主要な祭日の一つです。この祭日は、お清めの祭日とも呼ばれています。この祭日は、クリスマスから40日後にお祝いして、エルサレムの神殿でイエス様の奉献とマリア様のお清めを記念します。

この祭日は、主の奉献についてのものです。マリア様とヨゼフ様は、イエス様を神に奉献するためにエルサレムに連れていきました。これは、いのちの贈りものを認識して神に感謝し、神の使命が何であっても受け入れるように幼子の全生涯を捧げるための奉献の行いです。ユダヤの伝統に従って、初めに生まれた子は全て神のものであり、動物を生贄として捧げた後、両親によって守られましたので、イエス様は捧げられました。ヨゼフ様とマリア様は貧しかったので、生贄として鳥しか捧げられませんでした。ユダヤの律法では、母親のお清めは、子供の誕生後に、祭式によるお清めの儀式によるものでした。実際には、マリア様はイエス様の誕生前もその間も、その後も、童貞でありましたから、このお清めは必要ありませんでしたが、律法を完成するために行ったのです。

本日の福音は、神の掟に良心的に従い、マリア様とヨゼフ様のように忠実であるように私たちを招いています。彼らは貧しい人たちにキジのつがいや二羽の鳩のような犠牲を薦めるモーセの律法を尊重しました。私たちもまた、シメオンやアンナのようになりたいと思います。彼らは、祈りと絶食に熱心な尊敬すべき二人の老人で、強い宗教的精神は真の救いであるメシアのイエスに気づきました。彼らの目は救いを見ていましたからこれで充分でした。祈りに成長し救い主イエスに出会えるように、三位一体の神に助けを求めましょう。

(Sr. Paulina)

年間 第5主日（C年）

（ルカ5：1－11）

「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間です」というシモン・ペトロの告白は、さすがペトロという箇所でしょうか。今日の福音箇所では、ペトロはシモンと呼ばれています。シモン・ペトロと言われるのはこの箇所だけです。ペトロというのはイエス様がシモンに名付けた字名です。シモン（ペトロ）がイエス様のことを「あなたはメシア、生ける神の子です」（マタイ 16:13-20）と告白したことを受けてイエス様はシモンを岩、ペトロと名付けたのでした。

今日の箇所ではシモンとシモン・ペトロが使い分けられています。「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間です」という告白は、ペトロとして、イエス様の内に神の力が働いていることを洞察したからこそその言葉です。シモン・ペトロも私たちと同じ自己中心的になりやすい、また、権力に屈しやすく、自分のいのちが危機にさらされると師であるイエス様を否む弱さもありました。しかし、ペトロはイエス様の内に神を見る目という敏感な感性を持っていたようです。今日の福音で書かれているような出来事を体験しても、ペトロのような言葉が出てくるでしょうか。この人は自分たちを超えたスゴイ人だという驚きは生じるでしょうが、この出来事を受けたペトロは突然、「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間です」と答えたのでした。普通に流して読んでしまえば意識されないかもしれませんが、この告白は突拍子もないものです。なぜ突然「私は罪深い人間です」と言えたのでしょうか。ここに、ペトロのすごさがあるでしょう。

私達もイエス・キリストの出来事に照らされたとき、真の自分自身を見つめ、謙遜になる恵みと神に立ち帰る恵みを願いましょう。

（P. 志村）

年間 第6主日 (C)

(ルカ 6 : 17、20-26)

年間第6主日では、「平地の説教」として知られるルカによる福音箇所が読まれます。これは12使徒が選ばれた直後の出来事です。この説教は、使徒たちだけでなく私たちに対するイエスの教えの本質を示した教義です。この説教は、人類の経済的・社会的現実を反映した祝福と呪いから構成されています。ルカは、物質的な貧困は、この世の物事から私たちをさらに離脱させ、私たちを霊的な世界に惹きつけてくれると提案しています。この真福八端には、未来に照らして今をながめる終末論的な価値があります。

現代人は「富んでいる人々は幸いである」と考えがちです。しかし、イエスは「貧しい人々は幸いである」と言うだけでなく、現代の世の中では無価値な人々を賞賛されます。「人々に憎まれるとき、人の子のために追い出され、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである」とイエスは言われます。なぜ貧しい人々はこんなに褒められるのでしょうか？福音によると、貧困はキリスト教的な生活の特徴です。貧困という現実と直面した場合、貧しい人々には、失望するかそれとも神に信頼するかという2つの選択肢があります。そして神に心を開く者には最高の報酬である「天の国」が与えられ、神ご自身が報酬となってその人を平和と喜びで満たすのです。

新約聖書では、富は神の国を目指す上で大きな障害だとみなされています。「金持ちが神の王国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」(ルカ 18 : 25)。他方、貧困は神を信頼する助けとなるという意味で良いものとみなされ、一人ひとりが徳と聖性において成長するのを助けてくれます。苦しみと貧しさには意味があるのです。しかし、私たちが意味を見出せない時も、神はあらゆるみじめさを喜びへと変えることができます。私たちに必要なのは、今よりももっと深く強い信仰かもしれません。子供のようには神に信頼する力を祈り求め、貧しいときも富めるときも神により頼みましょう。

(Sr. Paulina)

年間 第7主日 (C)

(ルカ6：27-38)

今日私たちに語られる福音ですが、「敵を愛しなさい」「人を裁くな」の最初の部分。イエスが人々に説かれる言葉、語られた内容は人々を大いに驚かせたことでしょう。

この箇所の前では「貧しい人々は幸いである、神の国はあなたがたのものである。」今飢えている人々は幸い、今泣いている人々は幸い、とイエスは幸いを語り、その後で対照的に、富んでいるあなたがたは不幸、今満腹している人々、あなたがたは、不幸、今笑っている人々は不幸と語られました。富んでいるのは神からの祝福と考えていた人々にとっては大いに驚きであり、さらに驚くことになります。

イエスは、敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしろと言われ、さらに悪口を言う者に祝福を祈り、侮辱する者のために祈り、求める者には、だれにでも与え、人にしてもらいたいと思うことを、人にもしろと言われました。目には目を歯には歯をと言われ、考えていた人たちにとっては、これまた驚くべきことであったことでしょう。

人にしてもらいたいと思うことを、人にすること、人との関係性を良くすることは、人との関わりの中で生きている私たちにとって、すでに行っていることかも知れません。イエスは、自分を愛してくれる人を愛する、自分によくしてくれる人に善いことをする、返してもらおうことを当てにして貸す。これらは罪人でもしていること…と言われます。

イエスは罪人でもしていることではないことをするよう、弟子たちに語り導かれます。敵を愛し、善いことをし、何も当てにしないで貸しなさいと。ひたすら愛し、与える。これは私たちが愛して下さる神が行っておられることですね・・・。「神の子」である私たちが、神に倣って歩み、生きることができるよう。

そしてイエスは、人を裁かない様に、人を罪人だと決めない様に、赦す様に、与える様に…と言われます。そうするなら裁かれることがなく、罪人だと決められることがなく、赦され、与えられるからです。私たちは自分のことをすっかり忘れてしまい、自分のことを棚に上げ、他人を批判し、悪く言ったり、裁いてしまいがちですが、そうならない様心に留めることができればと思います。自分の量をあふれるほどに良くし、神の子としてふさわしく歩んでゆくことができますように。

(Fr. 古川利雅)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2024年12月29日

インドネシアの跣足カルメル在世会が全国大会 開催



2024年10月17日～20日まで、インドネシアの跣足カルメル在世会は、バリ島のデンパサールで全国大会を開催し、インドネシア全土から14のカルメル在世会共同体が参加しました。その参加者総数は103名でした。

全国大会のテーマは、「リジューの聖テレーズから学ぶ、主徳としての従順」でした。大会で、参加者たちは、このテーマについて共に考察し探求し、跣足カルメル在世会の特徴的な生き方として、従順の約束に見られる、テレジア的カルメルのカリスマの基本となる特質の発見に取り組みました。

全国大会の開会式には、デンパサール教区のシルベスター・サン司教と、跣足カルメル修道会インドネシア管区からジョン・フェリックス・エラブンカル神父が臨席されました。

全国の跣足カルメル在世会会員一同が共に集うこの大会で体験した喜びは、全会員の霊的生活と召命への忠誠心に新しい息吹をもたらしました。

(訳・注:小宮山延子)



いのちの言葉 2月

すべてを吟味して、良いものを大事にください。¹

(テサロニケの信徒への手紙一 5・21)

1

今月の言葉は、使徒パウロがテサロニケの共同体に送った手紙のしめくくりにある、一連の勧めの一文です。「“霊”の火を消してはいけません。預言を軽んじてはいけません。すべてを吟味して、良いものを大事にください。あらゆる悪いものから遠ざかりなさい²」。預言と識別、対話と傾聴。これがパウロからの、信仰の道を歩み始めたばかりの共同体への勧めです。

霊のさまざまな賜物のうち、パウロは特に預言を大切にしていました³。預言者とは、未来を予測する者ではなく、神の視点から個人や共同体の歴史を理解する賜物を持った人のことです。

しかし、すべての賜物は最も偉大な賜物、すなわち愛、きょうだい愛によって導かれるものです⁴。ヒッポのアウグスチヌスは、愛だけが、さまざまな状況を前に、どんな態度をとるべきかという識別を可能にすると断言しています⁵。

すべてを吟味して、良いものを大事にください。

個人的な賜物だけではなく、周りの人や相談相手、たまたま出会う人の内に、その人の持つ大きな可能性や、豊かな物の見方や考え方に目を向けられるようになることが必要です。大事なのは、どんな人に対しても真心で接し、また自分の視点には限界があることを自覚することです。

このいのちの言葉は、対話や意見交換の場において、モットーともなりうる言葉です。相手に耳を傾けるとき、その人の主張をすべて受け入れるわけではなくとも、相手の話に何か良い点を見出すことは可能であり、その意味で傾聴は私たちの頭と心を広げてくれます。愛ゆえに私たち自身のうちに無の場所を作り、共に何かを築く可能性を生み出すことです。

すべてを吟味して、良いものを大事にください。

ティモシー・ラドクリフ神父は、カトリック教会のシノドス司教会議に参加した神学者の一人ですが、こう断言しています。「このシノドスで、私たちにできる最も勇気ある行いは、私たちの間で誠実であることです。自分の疑いや疑問に関して、はっきりとした答えを持っていない事柄について、率直になることです。そうすれば互いに、探求の仲間、真理を乞い求める者として、近づき合うことができるでしょう。⁶」

これについてマーガレット・カラムは、フォコラリーノたちとの対話のひとつに、こうコメントしました。「考えてみると、自分が本当に考えていることをなかなか言う勇気がなかったことに気づきました。理解してもらえないことへの恐れや、多数意見と全く違うことを言わないためかも知れない。『真理を乞い求める者』になるとは、互いに隣人となる姿勢を持つこと、そこでは皆が神様の求めることを求め、皆で共に善を探している、そのように生きることだと分かりました」⁷。

すべてを吟味して、良いものを大事に下さい。

これは、2017年にスペインで「ジェンロッソ・ローカルプロジェクト」として生まれたパフォーマンスアート集団「モザイコ」に参加する、アンティアの体験です。このグループは、スペインの若者たちで構成され、アートとワークショップを通じてきょうだい愛の体験を伝えています。

アンティアは語ります。「私が信じるものとつながります。きょうだい愛の世界、そこでは（子どもたち、初心者の人、傷つきやすい人たちなど）誰もがこのプロジェクトに貢献します。モザイコのおかげで、たとえ問題や苦勞が大きくても、もっと一致した世界はユートピアではないと、信じられます。私は集団で活動する中で育ちました。ときには、一見率直すぎる意見を交わし合ったり、自分の考えの方がいいはずだと思っても、あきらめたりすることも多くあります。その結果は、『善』は一つひとつ、私たち皆の手で築かれていく、ということです」⁸。

パトリツィア・マッツォーラと「いのちの言葉」編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812
E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

¹ 日本聖書協会「新共同訳」

² 1テサ5・19-22

³ 参照: ヨハネパウロ二世、一般謁見、1992年6月24日 No.7

⁴ 1コリ13 参照

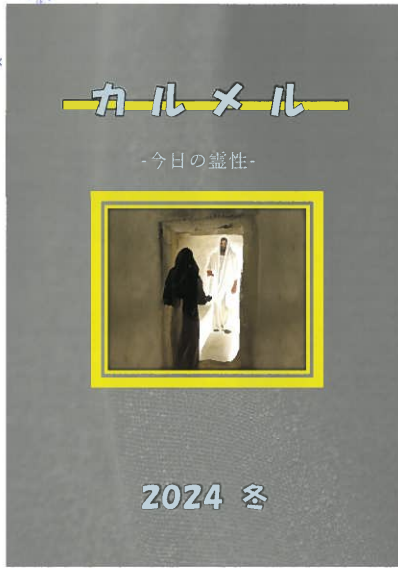
⁵ ヒッポのアウグスティヌス Ep. Jo. 7, 8. 参照

⁶ T.ラドクリフ神父(ドメニコ会)シノドス(司教会議)での黙想会第3回目「友情」サクロファーノ(イタリア)2023年10月2日

⁷ マーガレット・カラム、フォコラーレ運動会長、フォコラリーノたちとの対話、ロッカディパバ、2024年2月3日

⁸ モザイコGRLPは、「非暴力で強く」プロジェクトに賛同し、若者に向けた3日間の複合分野的なワークショップをあちこちの町で開催し、アートを通じて非暴力、平和と対話の意義を伝えることを目指す。

カルメル誌 新刊案内



2024年 冬号 No.395

カルメルの外のカルメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(8) 鶴岡賀雄

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性
—創世記一章① 志村 武

1915年のエディット・シュタイン
—メーリッシュ・ヴァイスキルヘンにて 釘宮明美

テレズ列聖百周年に向けて
—救い主イエスを待ち望む 伊従信子

陶器師の山暮らしの日々から
ラウダート・シ=神のいのちへの道(4) 椿 権三

風に吹かれて再び(10)—あるがままに 原 造

キリストの説かれた 幸いなる道(12) 九里 彰

霊的研究会講義録(26)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎

2024年 四句節特別号

「わたしたちを愛に導くのは信頼、ただ
信頼だけです」(聖テレズのメッセージ)

聖テレズ生誕 150 周年記念 教皇
フランシスコ使徒的勧告「信頼」に導かれて

わたしは愛になりました —愛の道を飛んでいくために 今泉 健

詩「むしられたバラ」より —テレジアの愛の道 九里 彰

テレズの信頼の道・小さい道と
ヤコブ・イスラエルにおける小さい道 志村 武

現代の闇を照らす灯火
—テレズの進行の試練 片山 はるひ

小さな 偉大さ 伊従 信子

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50~70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580円 (+送料 140円) を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費 (年 5冊 : 春夏秋冬+特別号 計 3,600円) を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当: 内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。
〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chaque Etoile
小野崎良子 編

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

教友社の定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)
 北アイルランドのベルファストに生まれる。
 イェズス会に入会し、26歳で来日。
 32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるがたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 智恵(1)
- 第2章 智恵(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的な文化(1)
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**



**第2版
好評発売中!**

マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

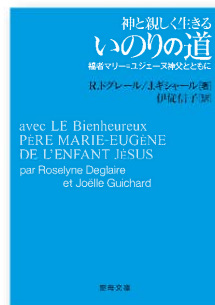
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



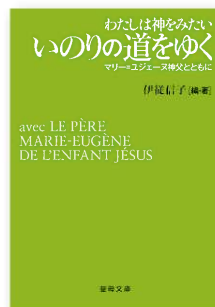
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

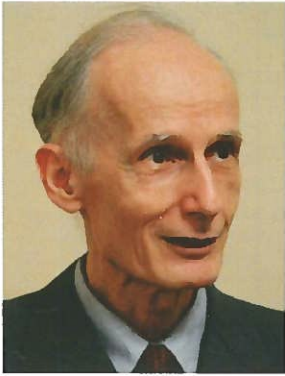
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	
	日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	
	信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2024年4月～)

- ・ 聖書深読黙想会 (土曜日 18時～日曜日 16時) カルメル会士
2024年
4月 20日～21日
5月 25日～26日
7月 27日～28日
9月 28日～29日
~~11月 9日～10日~~ 中止
→11月 30日～12月 1日
2025年
1月 11日～12日
3月 15日～16日
- ・ 奉献生活者のための黙想会 (初日 17時～最終日朝食) カルメル会士
~~2024年 8月 16日 (金) ～25日 (日)~~ 中止
12月 27日 (金) ～1月 5日 (日)

★教会の祈り (時課の祈り) を軸とした 黙想の場を提供いたします。

【ご利用に際して】

- ・ 介助やサポートなしで生活できる方、年齢は80歳までとさせていただきます。
- ・ 上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・ 個人の場合はご家族・ご親族に、奉献生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・ 部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です (グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院 (黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内 (2025年2月～2025年3月)

【一般のための黙想】 1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時) 中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

2025年

3月1日～2日

【聖書深読】 (土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父

2025年

3月15日

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

2025年

変更 ~~2月19日~~ → **2月12日** 3月19日

【祈りの学校 入門編】 (火曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

2025年

中止 ~~2月4日~~ 3月25日

【祈りの学校 教会の祈り】 (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

2025年

2月13日 3月20日

【奉献生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

2025年

3月4日(火)～13日(木) 中川博道神父(一般可)

【青年男女のための黙想会】 (35歳以下) 松田浩一神父

2025年

3月22日(土) 午後5時～23日(日) 午後5時

(日曜日4時から女子カルメル会でミサの予定)

教皇文書：『信頼への道』

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「祈りの学校」(2025年1月-3月)

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



日時(カトリック教会の祈り)：1月7日(火) ~~中止~~ ~~2月4日(火)~~ 3月25日(火)

*日時(典礼憲章・啓示憲章)：1月23日(木)、2月13日(木)、
3月20日(木)、

いずれも、10時から16時まで

場所：宇治聖テレジア修道院(黙想)

指導：松田浩一 神父(男子カルメル修道会)

持参するもの：ノート、筆記、ロザリオ(*『教会の祈り』)

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Fax 0774-32-7457

E-mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

カトリック教会 カルメル 青年たちの学び

リジュアの聖テレーズの『信頼への道』

日時：③ 2025年3月22日（土）PM5時～3月23日（日）PM5時
（尚、日曜日4時から女子カルメル会でミサの予定）

教皇文書：『信頼への道』



イエスのテレサ



リジュアのテレーズ



十字架のヨハネ

教皇フランシスコは、現在起こっている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場 所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

対 象：35歳までの青年男女

参加費用：下記のEメールか、FAXでご確認ください。

講話と同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

FAX：0774-32-7457

Email：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性
—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2025年2月15日（14：30～16：30）

列王記の全体構造とメッセージ

その後の日程：2025年3月15日、4月26日、5月17日

持ち物：必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2025年3月8日（土）10：00～15：00

講話担当司祭：今泉健神父

テーマ：四旬節を十字架の聖ヨハネに倣って歩む

【スケジュール】

10：00～10：20 はじめの祈り

10：30～11：30 講話①

11：30～12：00 ご聖体顕示、念祷

12：00～13：00 昼食（各自持参）

13：00～14：00 講話②、

14：10～ミサ、その後茶話会、解散（15：00頃）

持ち物：昼食（各自）

参加費：無料（自由献金をお願いいたします）

以降の日程：2025年6月28日（九里彰神父）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

テーマ「希望の巡礼者」

「主の恵みの年を告げ知らせるために」

(ルカ4章19節)

毎月第2木曜日(10:00～15:00)

予約は前日の16:00まで

- 1月 9日 「聖年」とは—新しい始まりの希望：聖年を迎える
2月13日 「希望はわたしたちを欺くことはありません」—教皇フランシスコの呼びかけ
3月13日 「希望の巡礼者」—イエス様とともに歩む
4月10日 「希望」と信仰—希望はイエスのご復活に基づく信仰の実り
5月 8日 「希望」と愛—希望は神の愛に基づいています
6月12日 「希望」と愛の業—希望は愛の業によって現れる
7月10日 「希望」と祈り—希望は祈りによって養われる
8月 休み
9月11日 「希望」と平和—主は与えてくださる平和における希望
10月 9日 「希望」と福音宣教—世界に希望を届ける、教会の使命
11月13日 「希望」と神の国—神の国の到来を待ち望む
12月11日 「希望」と喜び—神の訪れはもたらす贈り物。

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)



申込先

真命山 諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦
1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

サダナ瞑想 ~東洋の瞑想とキリスト者の祈り~

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
札幌 サダナ I	3/7(金)9:30- 9(日)(金)18:00	Fr. 植栗	札幌 カトリックセンター (札幌市中央区)	本間攝子 TEL080-3260-1864 本間不在時 山崎有紀 TEL090-4720-2157
フォローアップ	4/13(日) 9:30-17:00	同上	シャルトル聖パウロ 会九段修道院 (千代田区九段北)	来間(くるま)裕美子※ TEL:090-5325-2518 sadhana79878@ gmail.com
那須リピーター の会	4/27(日)9:00- 29(火・祝)14:00 (前泊可)	同上	ベタニア修道女会 聖ヨゼフ山の家 (栃木県那須郡那須町)	同上
ダイアリー	5/2(金)17:30- 6(火・祝)16:00	同上	上石神井無原罪聖母 修道院 (練馬区上石神井)	同上
名古屋入門 A	5/17(土) 9:30-17:00	同上	聖霊会八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ) 暁子 TEL:050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
サダナ I	5/22(木)17:30- 25(日)16:00	同上	小金井聖霊修道院 (小金井市桜町)	来間(くるま)裕美子※
沖縄 フォローアップ	5/29(木)9:00- 5/30(金)18:00	同上	聖クララ修道院 (島尻郡与那原町)	佐藤芳樹 Tel:080-3188-6573 jonah3295@ gmail.com
沖縄 I&アドバンス	5/31(土)9:00- 6/1(日)18:00	同上	※通いも可能です	

※ショートメールは避けてください。申し込まれると確認メールが返信されます。

確認メールが届かない場合は 090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel&Fax: 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年1月1日に、能登半島地震が起き、輪島市、珠洲市など、能登地方の人々は、家の倒壊、道路の地割れなど、甚大な被害を受けました。233名の方が亡くなられ、1175人が怪我をされ、1万5309人が今なお避難生活を余儀なくされています(1月23日現在)。一日も早く平穏な生活に戻れるよう、心からお祈りしたいと思います。

今年度の「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所: イグナチオ教会岐部ホール 404号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分)

時間: 13:30から

次回の予定: 3月13日

ジョンストン神父の『愛と英知の道』

第4章神秘主義と愛(114頁～123頁)

2025年度スケジュール

1月16日、3月13日、5月15日、7月10日、9月18日、11月20日

主催: **慈しみ深き会**

指導: ^{くのり}九里 彰神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00～20:00)

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご利用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

